

樋口課長は、各地の商工会の実情を見てきました。そこで、今の矢板の商工業者の課題はなにかとお聞きしました。少し厳しいお話しを！

●行動を起こそう

「サービス、あいさつ、便利さ」など、また、飲食店なら「これがうちの一番の強みです」など、何か一押しになるものを各店舗が作り上げて欲しいと思います。何となく一番にこだわる行為が少ないような気がします。

何が足りないのかという点、最大の課題は後継者がいないこと。今までの蓄えの中で営業しているだけで、なかなか設備投資に踏み切れないという現状があります。後継者は一朝一夕には育ちませんが、少なくとも、これからの自分の商売の浮沈を見極めることが必要でしょう。道楽的な要素、美しさ、環境、安全安心などのテーマについて深く考えて掘り込んでいく必要があると思います。そして何よりも、



笑顔でやっていることが一番重要だと思いません。「忙しい、儲からない」といつも言っている親のあとを誰が継ぎたいと思うでしょう？あげくに、「手伝わなくてもいいのか？」と子どもが聞いたとき、「勉強しろ！」はないですよ。誇りを持って自分の家業を子どもに語ることが大切でしょう。

頑張ってきた事業者にはこれからの生活も考えてさまざまなアドバイスをする事はできませんが、それはあくまでも、本人が希望した場合に限ります。例えば、お店を貸すときにさまざまな貸し方提案できますから、相談に来てくれれば情報を流すことができます。ですから、できるだけ、事業者とのコミュニケーションを常日頃から取っておくことで、相談にも乗りやすい関係性が築いていくのだと思います。

50周年記念式典を行います



学校平でツツジの植え付け

五十周年を記念して、山の駅たかはらの周辺にレンゲツツジ五十本を植えました。その他にも、十二月三日に五十周年記念式典を行います。これまで商工会に貢献して下さった方の表彰などのほか、当日は、日銀の調査統計局参事の鶴海誠氏をお招きして「最近の経済情勢について」という題で記念講演をお願いしています。

●取材を終えて

外から見ている以上に、間口の広い業務を抱えている商工会。八人の職員で忙しくこなしています。前田会長の、「商工会員が元気になるなければ、地域も元気になる」との、強いリーダーシップのもと、行政としっかりタイアップして、元気なまちづくりに貢献しようとする姿を見ることが出来ました。花火大会も、毎年会場が変わるのは様々な事情があるからですが、それら乗り越えて実施していく裏方としての苦労は大変なものだろうと思いました。

市役所ってどんなところ？

誰もがなじみがあり、よく知っている市役所。でも直接関係のあるところ以外は案外ご存知のない部署もあるでしょう。今号から、その市役所の中身をご紹介します。第一回は、「秘書政策室」只木光雄室長にお聞きしました。

●政策班は、矢板に住んでいて良かった、矢板に住んでみたいと思えるようなまちづくりを念頭において、市のこれからの方向付けを行うための計画策定を担当しています。

秘書政策室には、①秘書、広報・広聴の担当と②政策班という矢板のこれからの企画する担当があります。



現在、矢板市の十年間を見据えたビジョン、第二次二十一世紀矢板市総合計画を、一般市民から公募した策定委員が活発な議論を展開しながら検討しています。

住んでみたい、住んで良かったと思えるまちに

●秘書、広報・広聴の担当は、市長や副市長の日程調整、市長への手紙等への対応や記者発表の資料準備もしています。また、市政の課題や予算等を説明し意見交換する市民懇談会を地域に出かけて行っています。

●また、市民と行政が協働豊かで自立した矢板市を目指すための基本的な考え方を示すものとして「まちづくり基本条例」を市民の手づくりで立案することになり、市民によるまちづくり基本条例策定委員会を編成して、毎回、仕事など終わった夜に集まっていたり、原案づくりを進めています。